

《自著を語る》 新しい1キログラムの測り方

産業技術総合研究所
計量標準総合センター長
白田 孝



われわれの日々の生活は、水や空気のように普段はその恩恵を感じない、多くのものを支えている。電気や電話、最近ではインターネットのように、現れた当初は魔法のように感じた技術も、やがてその便利さに慣れ、恩恵を忘れてしまう。そして震災で電気が枯渇したり、個人情報流出のような技術がもつり出のような技術がもつり出た。計量標準も、そのような普遍は恩恵を感じないものひとつだろう。ただしそれは行政・メーカー・校正事業者・計量士など関係者の弛まぬ努力と技術革新の上に成り立っている。計量標準は水や空気のように存在を

感じさせない、あたりまえのものであるべきだが、同時にその重要性に改めて目を向けてほしい、というのは関係者の共通する問題意識だろう。この度縁あって講談社ブルーバックスから定義改定にかかる解説『新しい1キログラムの測り方』が出版された。『新しい1キログラムの測り方』が出版されたのは、技術が細分化されたなかであって、どこかみ砕いて非専門家層に届けるかはいとも悩むところである。またさまざまなチャンネル、といっても自前でできることはたかが知れている。メディアに取り上げて頂けないと、多くの方々に情報を届けるのは不可能である。メディア対策の観点からは日々多くの情報が消費されるなかであって、ニュース性をもって受け止めてもらえるような工夫も必要になる。

調整値も、昨年の11月に報告されたのでこれをもって内容に反映した。この『A must read』にできたかほどもかく、著者の主観を排したSIの全体像は全て納めることができたと思っっている。なお、もちろん定義改定の決議は今年度の度量衡総会次第であって定義改定が規定事実ではない。この問題はMost readableである。読者層の

比重測定やモル濃度の測定に言及していなかったこと、などである。筆者の力不足を恥じる次第である。以上、執筆の背景を述べてきた。いづれにせよ優れた解説が世に出るだろうが、定義改定にかかる最低限の情報には本書で得られると思う。もちろん、専門家の視点からは物足りなさも感じるだろう。計量のプロジェクトである読者各位のご批判、ご叱正を切に願う次第である。最後に本書執筆にあたりお世話になった各位に心よりお礼申し上げる。(国際度量衡委員会) 新1キログラムの測り方 科学が進めば単位が変わる

BLUE BACKS

新しい1キログラムの測り方

科学が進めば単位が変わる 白田 孝

「キログラム原器」がなくなる!?
2019年5月、質量の単位の定義が130年ぶりに変わります!
4つの単位が「kg」「A」「mol」「K」の新しい定義に

である。どうかお付き合い合いたいだきたい。研究所にとって成果は一義的には研究であり、その発信は論文と特許である。しかし今日一般への成果普及、いわゆるアウトリーチは不可欠であり、広報はその重要なツールである。産業技術総合研究所(産総研)も例外でなく、プレスリリースや講演会、パンフレットなど、さまざまなチャンネルを通じて一般の成果発信に努めている。ただ、技術が細分化されたなかであって、どこかみ砕いて非専門家層に届けるかはいとも悩むところである。またさまざまなチャンネル、といっても自前でできることはたかが知れている。メディアに取り上げて頂けないと、多くの方々に情報を届けるのは不可能である。メディア対策の観点からは日々多くの情報が消費されるなかであって、ニュース性をもって受け止めてもらえるような工夫も必要になる。

英語の書評で、'A must read'か、'Most readable'といった形容をかける。必読の書、とか、一気に読ませる、といったニュアンスであろう。出版の目的は単位系というシステムの成り立ち、現在の懸案、定義改定による解決の方向性という全体像の理解にある。そのためには、この一冊を読んでもらえばとあり、関係する基礎物理定数の

1mg未満のJCSS校正が可能になりました!!

サブミリグラム分銅

耐腐食性に優れた板状のチタン製です。サブミリグラム分銅を扱いやすいクロスピンセット付です。JCSS校正証明書・トレーサビリティ体系図を添付しています。

株式会社 村上衡器製作所

〒535-0005 大阪市旭区赤川2丁目10-31
TEL (06)6928-7571 FAX (06)6928-1099
http://www.murakami-koki.co.jp/
E-mail sales@murakami-koki.co.jp

の知識と全体像の理解を得られる、すなわち'A must read'というものになり、大きな意義がある。その発信は論文と特許である。しかし今日一般への成果普及、いわゆるアウトリーチは不可欠であり、広報はその重要なツールである。産業技術総合研究所(産総研)も例外でなく、プレスリリースや講演会、パンフレットなど、さまざまなチャンネルを通じて一般の成果発信に努めている。ただ、技術が細分化されたなかであって、どこかみ砕いて非専門家層に届けるかはいとも悩むところである。またさまざまなチャンネル、といっても自前でできることはたかが知れている。メディアに取り上げて頂けないと、多くの方々に情報を届けるのは不可能である。メディア対策の観点からは日々多くの情報が消費されるなかであって、ニュース性をもって受け止めてもらえるような工夫も必要になる。

調整値も、昨年の11月に報告されたのでこれをもって内容に反映した。この『A must read』にできたかほどもかく、著者の主観を排したSIの全体像は全て納めることができたと思っっている。なお、もちろん定義改定の決議は今年度の度量衡総会次第であって定義改定が規定事実ではない。この問題はMost readableである。読者層の

計量器製作80年の伝統と信頼

株式会社三光精衡所

http://www.sanko-s.jp/
〒125-0042 東京都葛飾区金町2-1-1
TEL03-3607-2328 FAX03-3607-2348
E-mail:info@sanko-s.jp

調整値も、昨年の11月に報告されたのでこれをもって内容に反映した。この『A must read』にできたかほどもかく、著者の主観を排したSIの全体像は全て納めることができたと思っっている。なお、もちろん定義改定の決議は今年度の度量衡総会次第であって定義改定が規定事実ではない。この問題はMost readableである。読者層の

PRESSURE

圧力計

株式会社 第一計器製作所

http://www.daiichikeiki.co.jp

調整値も、昨年の11月に報告されたのでこれをもって内容に反映した。この『A must read』にできたかほどもかく、著者の主観を排したSIの全体像は全て納めることができたと思っっている。なお、もちろん定義改定の決議は今年度の度量衡総会次第であって定義改定が規定事実ではない。この問題はMost readableである。読者層の